

朝採り十ぶらす

■日産「ノート」に新技術

日産自動車は24日、新しいハイブリッド技術を採用し11月に発売する小型車「ノート」の改良モデルの生産開始に伴い、神奈川県横須賀市の追浜工場で記念式典を開いた＝写真＝。11月2日の正式発表に先立ち、改良モデルを報道陣に公開した。



カルロス・ゴーン社長がノートの改良モデルに乗って登場し、約千人の従業員らを激励した。ゴーン氏は式典で「(改良モデルに)軽快な走りや燃費効率を実現する革新的な新技術を搭載する」と述べた。

またゴーン氏は式典後、報道陣に対し「(新技術は)近代的なハイブリッドだ」と説明し、ノートの改良モデルは同類の車種の中で「一番燃費が良い」と強調した。環境技術では、電気自動車(EV)やクリーンディーゼルなどさまざまな手法で他社と競争していくとして、日産の傘下に入った三菱自動車が開発を進めるプラグインハイブリッド車(PHV)の技術を採用する考えを改めて示した。

■張りつつや与える美容液

コーセーは、肌に張りやつやを与える美容液「コスメデコルテ iP.Shot(アイピーショット)」＝写真＝を発売した。最先端の細胞研究で開発した美容成分を配合。肌に密着するように伸びて広がる。乾燥による小じわを目立たなくし、明るい印象の肌に導くようにした。20g入り。希望小売価格は1万800円。問い合わせは通話無料のお客様相談室、☎0120・763325へ。



■青森産リンゴの耐ハイ

合同酒類は、国産素材にこだわった缶酎ハイ「NIPPON PREMIUM 青森県産ふじりんごのチューハイ」＝写真＝の缶デザインを一新し、発売した。青森県産品のPRキャラクター「決め手くん」をデザインに採用。青森産リンゴを丸ごと搾り、果実本来の味わいを引き出した。350ml缶の参考小売価格は154円。問い合わせはオエノングループお客様センター、☎03・3575・2787へ。

■ナシ味の天然水

コカ・コーラシステムは、鳥取県産ナシのエキスを加えた天然水「い・ろ・は・すなし」＝写真＝を11月28日に発売する。果糖、酸味料、香料なども配合しており、口に含むとナシの味わいと香りが



今月末退任 高向巖札商会頭に聞く

新幹線誘致 腐心の末結実

札幌商工会議所の高向巖会頭(71)が、12年間の任期を終えて今月いっぱい退任する。11月に引退予定の北海道商工会議所連合会長と合わせ、後任に内定している岩田圭剛・岩田地崎建設社長にバトンタッチする運びだ。北海道新幹線の誘致に腐心した高向の思い出や、今後の道内経済の課題を聞いた。(聞き手・宇野一征)



在任中の思い出や道内経済の課題について語る高向巖会頭

「12年間は振り返り、どのような心境ですか。」
「いろいろな事業の音頭を取りましたが、会員企業も会議所の職員もみんな面白がってやってくれた。だからかな、つらさや苦勞は不思議となかったですね。」

「当初は誘致への慎重論が根強く、道民の意見は二分されていました。調べると、新幹線に乗ったことがない道民が多かった。そこで、小学生を対象に東北新幹線の体験乗車を企画するなど新幹線の利便性のPRに力を入れ、誘致に向けた署名活動を行いました。東北の自治体や商工会議所が誘致運動への協力要請に快く応じてくれたこと

も、開業の弾みになったと思います。より高い経済効果を得るためにも、一日も早い札幌延伸を願っています。」
「北海道経済の現状をどう見ていますか。」
「新製開発に取り組む熱心な起業家たちの登場などもあり、道内の産業の課題である『利益率の低さ』は少しずつ改善されてきたと思います。」

「最近ではJR北海道の経営問題について、各地域から心配する声が出ています。」
「JR北海道の経営は、ホテルなど手持ちの資産を切り売りしていることから分かるように、非常に厳しい状況です。深刻な赤字路線については、バス転換も考えなければならぬでしょう。どうしても残さなければならぬ路線は、国への支援の要請も検討しなければなりません。会議所としても、側面支援していかねばならない問題だと思っています。」

「環境太平洋連携協定(TPP)承認案の国会審議も本格化しています。」
「農業は北海道の基幹産業の一つです。農業地域が衰退すれば、周辺の商業地域もだめになり、美しい農村風景を売り出した観光も成り立たなくなります。国などはこうした影響も十分に考慮して、農業政策に取り組んでいただきたい。」

「在任中は北海道新幹線の誘致に熱心に取り組みしましたね。」

「誘致に熱心に取り組みしましたね。」

「誘致に熱心に取り組みしましたね。」

「誘致に熱心に取り組みしましたね。」

「誘致に熱心に取り組みしましたね。」

居酒屋チェーン「山の猿」の「介」などを経営するアイックス札幌が、道南で回転すしチェーン「すしまる」を展開する「やすけフーズ」(函館)を買収した。アイックスは2020年春に自社の飲食店を現在の2倍強の約120店に増やす計画で、成長に向けて新業態への進出を決めた。やすけフーズの設備や知見を生かし、すしをコンビニエンスストアに供給することも検討している。



アイックスが買収したやすけフーズが展開する回転すし店「すしまる」＝函館市

アイックス「すしまる」買収

減しながら居酒屋で出すメニューを充実させる。回転すし店だった建物などアイックスがこれまで出店の対象としてこなかった物件も、今後は積極的に手に入れ、傘下の飲食店を増やす方針だ。

また、やすけフーズが食材を前処理するため函館に構えている施設「セントラルキッチン」を拠点に新事業も手がける考えだ。具体的には、コンビニエンスストアにすしや刺身を卸売りする事業を早ければ1年以内で始める。

アイックスは道内でガソリンスタンド31店を運営し、近年は飲食業にも力を入れる。現在約50億円ある飲食部門の売上高を20年3月期に約160億円に引き上げる計画。飲食部門を担う子会社アイックスフーズ(札幌)の社長で、やすけフーズ社長を兼務する伊藤一也社長は「今回の投資で外食ブランドの幅を広げ、発展を加速させたい」と話す。

アイックスは道内でガソリンスタンド31店を運営し、近年は飲食業にも力を入れる。現在約50億円ある飲食部門の売上高を20年3月期に約160億円に引き上げる計画。飲食部門を担う子会社アイックスフーズ(札幌)の社長で、やすけフーズ社長を兼務する伊藤一也社長は「今回の投資で外食ブランドの幅を広げ、発展を加速させたい」と話す。

アイックスは道内でガソリンスタンド31店を運営し、近年は飲食業にも力を入れる。現在約50億円ある飲食部門の売上高を20年3月期に約160億円に引き上げる計画。飲食部門を担う子会社アイックスフーズ(札幌)の社長で、やすけフーズ社長を兼務する伊藤一也社長は「今回の投資で外食ブランドの幅を広げ、発展を加速させたい」と話す。

アイックスは道内でガソリンスタンド31店を運営し、近年は飲食業にも力を入れる。現在約50億円ある飲食部門の売上高を20年3月期に約160億円に引き上げる計画。飲食部門を担う子会社アイックスフーズ(札幌)の社長で、やすけフーズ社長を兼務する伊藤一也社長は「今回の投資で外食ブランドの幅を広げ、発展を加速させたい」と話す。

次世代の技術 札幌に集う 来月10、11日「ビジネスEXPO」

製造業やITなどの製品やサービスを開発する企業や、技術・ビジネス交流会「ビジネスEXPO」が11月10、11の両日、札幌のアクセスサポロで開催される。代エネルギーの水素などに関する講演も行われる。

北海道科学技術総合振興センター(財団)などがつくった主催。道内外の354社・団体の技術者をPRする。

10日午前10時半から、デンチ期間中、将棋の羽生善治氏、来大の松原仁副理事長、大阪教授らが講演やセミナーを行う。水素関連のコーナーでは、車の燃料電池車「MIRAI」や室蘭市が所有する移動式水素を展示。ものづくりの現況が職場を紹介するブースも入場無料。10日は午前10時半、11日は午前9時半～午後5時半、セミナーの申し込みが、問い合わせは実行事務局☎011-915100へ。

ほくほくFG 純利益39%増

9月中旬上方修正 北海道銀行と北陸銀行の持ち株会社、ほくほくフィナンシャルグループ(FG、富山市)は24日、2016年9月中旬連結決算の業績予想について、純利益を5月の前回予想と比べて39.2%増の167億円に上方修正すると発表。先の倒産が少なな当金が想定を大きく上回った。一般企業の売経常利益は3933億円、経7%増の233億、それぞれ上方修正



修正すると発表。先の倒産が少なな当金が想定を大きく上回った。一般企業の売経常利益は3933億円、経7%増の233億、それぞれ上方修正